

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和4年度技術情報第9号（イチゴのハダニ類）について（送付）

11月の調査で発生ほ場率が73%（平年48%）と高く、発生程度の高いほ場も認められています。ほ場をよく観察し、初期防除に努めてください。

なお、本情報は病害虫防除所ホームページ（www.jppn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。



令和4年度 技術情報第9号

- 1 農作物名 イチゴ
- 2 病害虫名 ハダニ類（ナミハダニ）
- 3 発生状況
 - (1) 発生地域 県本土
 - (2) 発生量 多

4 情報の根拠

- (1) 11月の発生ほ場率は73%（平年48%）と高かった（図1）。過去10年では平成27年度と並んで最も高く、発生程度の高いほ場も認めた（表1）。
- (2) 天敵に影響が小さいとされる薬剤を中心に7剤を供試し、ナミハダニの卵に対する殺卵効果及び成幼虫に対する殺虫効果を室内で試験したところ、殺卵率及び殺虫率の低い薬剤が認められた（表2）。なお、本結果は、採集個体群での結果であることに留意する。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 下葉や寄生葉は摘葉し、ほ場外に持ち出し処分する。
- (2) 薬剤は防除効果を高めるため、下葉かきを行い、葉裏まで散布ムラのないように丁寧に散布する。
- (3) 薬剤によっては感受性の低下が懸念されるので、散布後は防除効果を必ず確認する。
- (4) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。
- (5) カブリダニ類を天敵に用いる場合は、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (6) 薬剤によっては、ミツバチに影響があるので薬剤選定に注意する。

6 調査結果

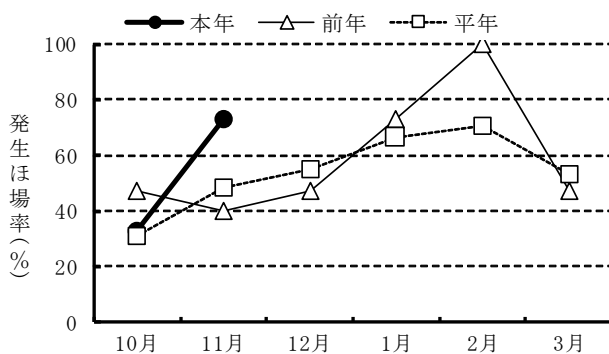


図1 ハダニ類の発生ほ場率の推移

表1 ハダニ類の発生程度別ほ場数

調査月	調査地点	ほ場数	発生程度				
			甚	多	中	少	無
11月	日置市	4		2	2		
	さつま町	4				2	2
	志布志市	7	1			4	2

注) 発生程度(寄生株率) 甚: 96%以上, 多: 71~95%
中: 41~70%, 少: 1~40%

7 室内での各種薬剤に対する殺卵及び殺虫試験結果

(1) 供試虫の採集場所及び試験年月日等

採集場所	採集年月日	試験区分	試験年月日
日置市伊集院町	令和4年4月12日	殺卵	令和4年6月9日～19日
		殺幼虫	〃 6月23日～10月3日
		殺成虫	〃 7月29日～8月29日
志布志市有明町	令和4年4月12日	殺卵	令和4年6月9日～19日
		殺幼虫	〃 6月23日～10月3日
		殺成虫	〃 7月29日～8月29日

(2) 試験方法

浜村（1997）の方法に準じ、供試虫をインゲンマメ葉片とともに所定濃度に希釈した薬液に浸漬し、卵とふ化幼虫は処理5日後に、成虫は処理2日後に調査した。

(3) 試験結果の概要

殺虫効果（薬剤感受性）は比較的新しい薬剤でも低下していたり、採集個体群（ほ場）で異なるものも認められた。

本虫は短期間で薬剤抵抗性が発達し、ほ場単位でも薬剤感受性が異なることが想定される。本試験結果は、あくまでも採集した個体群の結果であることに留意する。

表2 イチゴのナミハダニに対する各種薬剤の殺卵・殺虫効果

薬剤名	薬 剤					殺虫効果(殺卵率, 殺虫率) ⁴⁾					
	天敵への影響 ¹⁾		ミツバチへの影響 ²⁾	IRACコード ³⁾	希釈倍数	日置市伊集院町 採集個体群 ⁵⁾			志布志市有明町 採集個体群 ⁶⁾		
	ミコカブリダニ	チリカブリダニ				卵	ふ化幼虫	成虫	卵	ふ化幼虫	成虫
カネナイトFL	◎	◎	◎	20B	1,000	91	94	100	71	89	97
コテツFL	×	×	10日	13	2,000	98	98	98	98	94	87
スターナイトFL	◎	◎	1日	25A	2,000	16	36	— ⁷⁾	13	59	—
ダニオーテFL ⁸⁾	◎	◎	◎	33	2,000	100	100	100	100	100	100
ダニコングFL	◎	◎	◎	25B	3,000	22	93	82	96	89	89
ダニサラバFL	◎	◎	1日	25A	1,000	14	15	—	17	19	—
ダブルシューター ⁹⁾	×	—	2日	-, 5	1,000	24	95	98	15	89	88

1) 薬剤の天敵への影響は、アリスタ ライフサイエンス株式会社 影響表 2022年10月修正 第32版及び農業製造メーカーHPより ◎:影響が小さい ×:強い影響あり

2) 薬剤のミツバチへの影響は、農業ハンドブック2021年版(一般社団法人 日本植物防疫協会)及び農業製造メーカーHPより ◎:影響なし、ほとんど影響なし
日数記載:記載の日数以上開けてから導入が可能。 ※影響のない農薬でも、散布時は蜂を巣箱に回収し、薬液が乾いてから活動させる

3) IRAC International作用機構作業部会作成2022年6月 第10.3版より

4) 殺虫効果は(無処理生存率-処理区生存率)/無処理生存率×100で算出し、3反復の平均値

5~6) 収穫末期の本ほから採集

7) -:試験を実施していない

8) 銅を含む薬剤と混用及び近接散布で効果が低下する恐れがある

9) 有効成分に気門封鎖剤を含む